

## ■ お客様

北井義久 様 (ゲストスピーカー・日鉄住金総研(株)チーフエコノミスト)	遠藤あけみ 様 (大森会員ゲスト)	黒川秀男 様 (大森会員ゲスト)
斉藤邦雄 様 (大森会長ゲスト)	猪野繁雄 様 (野口幹事ゲスト)	阿部隆男 様 (野口幹事ゲスト)
小澤幸男 様 (大森会員ゲスト)	山口廣次 様 (西川会員ゲスト)	長坂圭将 様 (今野会員ゲスト)
太斎 寛 様 (野口幹事ゲスト)	平田貢生 様 (野城会員ゲスト)	前田善弘 様 (野城会員ゲスト)
後藤康夫 様 (渡邊会員ゲスト)	白井富之 様 (花光会員ゲスト)	柏倉大介 様 (白井会員ゲスト)
飯生哲雄 様 (野城会員ゲスト)	小山嘉一 様 (真野会員ゲスト)	浅沼直人 様 (真野会員ゲスト)
片岡和人 様 (友田会員ゲスト)	石川英夫 様 (新千葉 RC 会長)	内田健夫 様 (新千葉 RC 幹事)
宮嶋隆生 様 (依田会員ゲスト)	高橋潤一 様 (新千葉 RC パスト会長)	内山義明 様 (千葉中央 RC 会長)
長谷川七三 様 (新千葉 RC パスト会長)	始平堂玄昌 様 (千葉幕張 RC 副会長)	植草和典 様 (千葉幕張 RC パスト会長)
土屋和紀 様 (千葉中央 RC 幹事)	鈴木久夫 様 (千葉幕張 RC 顧問・監査委員長)	益西卓瑪 さん (米山奨学生)
鈴木久夫 様 (千葉幕張 RC 顧問・監査委員長)	鳴海寿裕 様 (千葉東 RC 幹事)	

## ■ 幹事報告

なし

## ■ 委員会報告

なし

## ■ 「それなりに成長が続く世界経済と日本経済」

### 日本経済は三本足 (消費・投資・輸出) 成長で当面は安泰

- 世界経済＝回復に転じた世界経済＝成長率 17・18 年 2% 台半ば (2000 年代 2.6%)＝景気回復の最終局面？  
世界経済の潜在成長率は鈍化＝3% 前後から 2% 台前半に (米国は 3% 弱から 2% 強、日本は 1% 強から 0.5% 強)  
世界経済は持ち直し継続＝雇用拡大による個人消費拡大がバックボーン (但し賃金デフレ状況は継続＋設備過剰)  
持ち直しのきっかけ＝中国経済対策効果の顕在化＋資源投資減少の一巡＋半導体需要急増  
19 年には次の不況？＝中国の投資急減＋米国のインフレ圧力増大⇒景気後退先送りも (自然にスローダウン)  
景気回復の進行度合い 日本・米国・中国 8 合目 ASEAN 7 合目 欧州 5 合目
  - 先進国＝それなりの回復維持の米国と持ち直しが続く欧州＝労働需給好転＋一次産品価格低下＋財政収支改善  
米国：高水準の企業収益＋人手不足＝雇用の回復継続＋賃金伸び悩み (不稼働労働人口の再参入)＝緩やかな拡大  
低めの家計債務水準＝消費拡大の余地あり＝サービス消費・住宅投資は増加＋自動車は頭打ち  
設備投資・輸出は伸び悩みからやや改善＝資源関連投資底入れ＋中南米向け輸出持ち直し  
トランプ効果は期待薄＝低い政策遂行能力＋再選狙いの規制緩和・ばら撒き  
欧州：足下は回復テンポ若干加速＝雇用拡大＋インフレ率低下で実質賃金上昇＝個人消費増加⇒投資も持ち直しハ  
ギリシャ・イタリア債務問題＝小規模公的資本注入＋先送り＝決定的なマイナスとはならず  
BREXIT＝EU への不安 (財政統合抜きの政治統合＋ドイツ独り勝ち)＋市場経済システムへの不満 (東欧移民)  
韓国：輸出持ち直して景気回復＝近未来は問題 (政治＋個人ローン急増＋若年層の高失業率)
  - 中国＝高度成長終了から中成長へ＝需要飽和化＋供給力伸び悩み＋国際競争力低下＝やり繰りで不況を防ぐ？  
16 年半ば以降成長率加速＝輸出増加＋歳出拡大＋腐敗摘発一巡＝アップダウンを伴いそこそこの拡大  
高い貯蓄率が支える投資＝インフラ投資再拡大＝地方債急増＋売れ残り住宅対策＝大都市住宅バブル  
19 年以降 失速の可能性＝投資減少＋逆資産効果 (住宅価格下落)＋対米貿易摩擦＝対策成功の可能性も
  - その他新興国＝ようやく持ち直すが加速は無理＝中国爆食バブル再現は無し＋ばら撒き政策行き詰まり  
成長率鈍化＝一次産品価格低下＋資源関連投資底這い＋インフレ・財政赤字・経常赤字＋政治不安定  
中国爆食バブル崩壊の影響＝資源関連投資激減＝NIEs・ASEAN・豪州・カナダ⇒OPEC 諸国に連鎖  
ロシア・ブラジルは長期低迷 (資源高時代の無駄遣い)⇔ASEAN・インドは中成長持続 (インドは財政赤字が懸念材料)
- 一次産品価格＝中国爆食ブーム一巡で急低下から弱含みへ＝当面低水準が継続  
原油価格＝価格急落の可能性あり (50 ドル台が妥当水準)  
米国・カナダ増産余力＋原油タンク満杯＋原油需要伸び悩み＋石油製品マージン大 (トータルでは問題なし)  
一次産品価格は底這い＝過剰生産能力＋新興国 (中国) の需要飽和化＋シェア維持政策
  - 日本経済＝何とか始まった安定成長＝消費・投資が揃い踏み (2 本柱の確立)＋輸出は伸び悩み  
15～18 年度 1% 強の成長維持＝潜在成長率 0.8%＋労働人口増加 0.5%⇒人手不足は戦後最高ハ  
足下の日本社会はようやく正常化＝企業収益の回復＋人手不足＋不効率企業の退出進展＋社会不安は一巡  
企業収益は戦後最高水準＝特に非製造業が好調＝経済サービス化の流れが定着  
人手不足は戦後最高水準へ＝青森・鹿児島などは戦後初めての人手不足状態  
人手不足が成長抑制要因に＝1% 強の成長の長期化は無理？＝(低生産性部門縮小＋省力化投資) は困難
  - 個人消費＝堅調に拡大＝雇用拡大から賃金上昇への動きが徐々に本格化 (労働力化率上昇はスピードダウン)  
個人消費は何とか持ちこたえている状況から緩やかな拡大に転換＝マインド悪化の一巡と所得拡大の継続  
所得拡大はおおむね順調＝非正規雇用増大 (中年女性＋高齢者)＋賃金の緩やかな上昇 (特に非正規)  
貯蓄率上昇による消費停滞から脱却＝食品物価上昇＋年金引下げ＋公的負担増大＋マイナス金利＋株安  
小売店：食品スーパー・コンビニ＝売れ筋商品投入＋店舗改装・拡大 デパート＝競争激化＋店舗劣化 (外人頼み)  
耐久消費財：乗用車は回復 (買替需要顕在化)＋家電は持ち直し (安売り路線から高付加価値商品投入へ)

